



お問い合わせ: info@ifcajapan.org

IFCAの10周年を記念して

2/25 (土) + 2/26 (日)

福岡⇄東京

**2都市の会場と全国をウェビナーで繋ぎ
イベントを行います!!**

全てのイベントの情報とお申し込みは **こちらから**
<https://ifca-10thanniversary.peatix.com>



共催:

NPO法人インターナショナルフォスターケアアライアンス www.ifcajapan.org
米国 International Foster Care Alliance [IFCA] 501 (c) 3 www.ifcaseattle.org
RTCTR (25日のプログラム)

協力:

SOS 子どもの村JAPAN

助成:

独立行政法人国際交流基金
日本財団

社会で子どもを育てる一

IFCAと歩んだ10年とこれからの10年のために

講師：白川美也子

(精神科医/IFCA臨床ディレクター/こころとからだ・光の花クリニック院長/TF-CBTレジオナルトレーナー)



IFCA 10TH ANNIVERSARY



IFCA10周年記念の集いにあたり、社会で子どもを育て、親子を支えるために何が必要か、私たちに何ができるかを考えるのに役立つお話をしたいと思います。私は、ストレストラウマ性疾患を専門とすることになった医歴33年目の出だしのプロセスで、子どもの「治療」だけでなく、子どもの「養育」に心を惹かれ、今まで、児童養護施設、児童治療施設、自立支援施設、乳児院、母子生活支援施設、婦人保護施設に嘱託勤務をしたり、研修やプログラム作成をしたりして協働してきました。

これらの歴史を振り返り、特に児童福祉の領域でよりよい支援が可能になるように、①ユース ②ケアギヴァー ③プロフェッショナル、というIFCAの3本柱にちなみ、以下の講演を行います

① IFCAのユースとの出会いと成長：子どものトラウマと悲嘆についての概略を踏まえた上で、IFCAの日米ユースの子どもたちの出会いと成長の物語を軸に、社会的養護の子どもたちのメンタルヘルスのお話をします。

② モッキンバードファミリーモデルの里親さんとのコンサルテーションからの学び：相互コンサルテーションの方法と実際、社会的養護の子ども達を見る上で重要なトラウマインフォームドケア/アプローチについて、さらに、発達性トラウマやアタッチメント、ポリヴェーガル理論などの最近明確になってきた新しい領域への理解をもとに、子どもの行動への理解とケアを精緻化していくお話をします。

③ TF-CBTの均てん化の過程でわかってきたこと：IFCAと共に国際トレーナーを招いて行った8回の入門トレーニングと、4回のアドバンストレーニング、個人で行った16回の入門トレーニングと、参加者や児童相談所群を対象にした200回を超えるコンサルテーションの経験からみえてきた子どもの回復を支援するポイントから、明日にでも役立つTIPSをお伝えします。

【講師紹介】 白川美也子：1989年浜松医科大学卒業。浜松市内のいくつかの病院を経て、2000年4月より独立行政法人国立病院機構天竜病院小児神経科・精神科医長。2006年より浜松市保健福祉部保健福祉施設設置準備室、2007年より浜松市精神保健福祉センター所長、2008年より国立精神・神経センター臨床研究基盤研究員。2010年1月~20114月まで昭和大学精神医学教室、特任助教。2010年4月より東京女子医科大学女性障害健康センター非常勤講師、フリーランスになり東日本大震災の支援と地域における子ども虐待やDVによるサバイバーの方への臨床的支援、研究に携わる。2012年4月より横浜カメリアホスピタル勤務。2013年10月よりこころとからだ・光の花クリニック院長

講演の対象：社会的養護や児童福祉の現場で働く人、里親、社会的養護のユース、子どもの育ちや社会的養育に興味のある全ての人が対象です

講演から学べること：IFCAの10年の歩みの流れと、日米の情報を比較することで見えてくる新しい社会的養育ビジョンが現実になるまでの社会的課題において、トラウマインフォームドケアの観点で自分に何ができるかがみえてくると思います。また、子どものトラウマとトラウマ性悲嘆の概略、施設児童や里親養育児童に特有の問題、発達性トラウマやポリヴェーガル理論などのケアへの援用、などが学べます

申し込みフォームURLとQRコード：

<https://ifca10thanniversary1.peatix.com>

◎ ハイブリッド開催

対面会場：阿佐ヶ谷地域区民センター

(〒166-0001 杉並区阿佐谷北1丁目1番1号)



参加料：一般 2000 円 当事者ユース無料

定員：対面会場 88 名 オンライン 450 名

講師：マディソン・サンドバル・ラン

社会的養護の下で育つ子どもと若者が経験するグリーフ（悲嘆）と喪失への対応

児童養護施設や里親家庭で育つ子どもや若者は、しばしば大きな悲しみや喪失感を経験します。育児放棄、家族やきょうだいとの離別、親の懲役、愛する人の死などは、社会的養護の下で暮らす子どもやケアを離れた若者が経験する喪失感の多くの例のほんの一部です。このような重要な愛着の崩壊は、過去のトラウマの体験と相まって、感情や行動を制御し、健全な人間関係を形成する能力など、子どもや若者の発達に大きな影響を与えます。

■ このインタラクティブな講義から、参加者は以下のことを学びます

○最もありがちな喪失と、それに対するグリーフ（悲嘆）やニーズの表現

○思春期の脳の発達と活性化の段階におけるトラウマの影響

○癒し、健全な愛着、セルフレギュレーション（自己調整）を促進するための方法やストラテジーを探し出し、実施を検討

講演の対象：当事者ユース、里親、施設・児童福祉関係

申し込みフォームURLとQRコード：

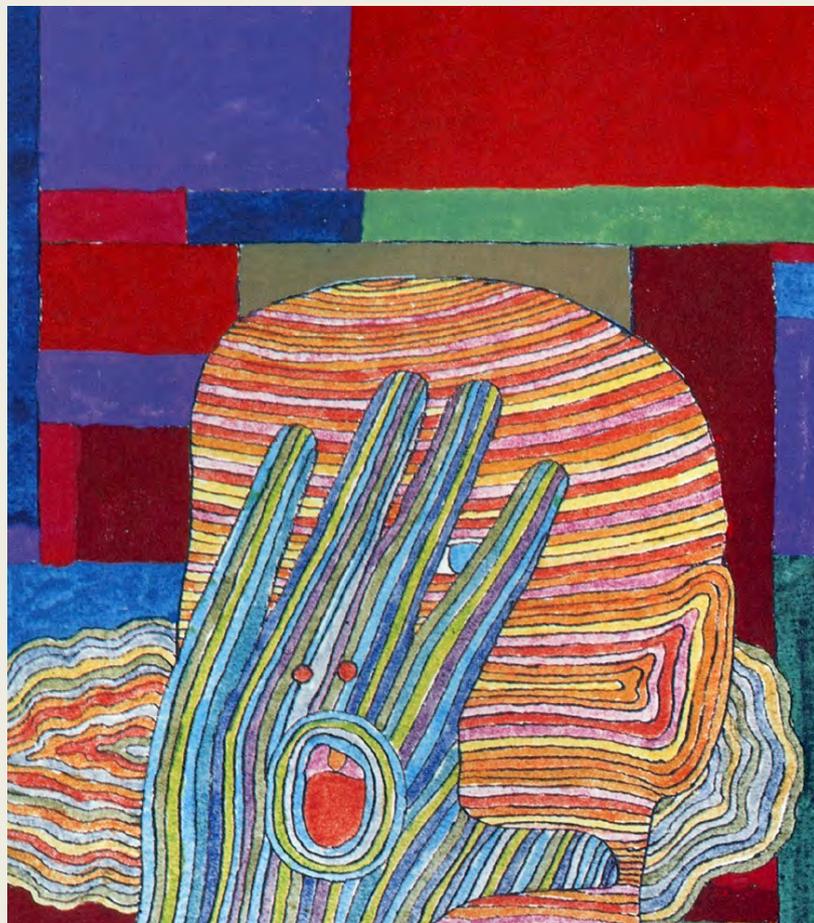
<https://ifca10thanniversary2.peatix.com>



◎オンライン開催

参加料：一般 1000 円 当事者ユース無料

定員：オンライン 450 名



< 講師紹介 マディソン・サンドバル・ラン >

ベトナム系黒人の一世で、7年間里親制度で育ちました。19歳でフォスターユースの若者のチームでネバダ州の社会的養護の子ども・若者の権利章典の策定にたずさわりました。20歳の時、米国議会でフォスターユースに対する過剰投薬に関わる認識を変革するために活動しました。政策、実践、研究において、フォスターユースを巻き込んで展開する方法と戦略に関する研究報告書を共同執筆しました。

現在は、児童福祉制度を強化・改善するために、家族や若者のリーダーと提携する専門家およびアドバイザーを務めています。専門は、州や国の機関へのコンサルテーションの提供、プログラムやサービスの向上、採用やトレーニングの支援、公共政策の開発や実施への情報提供、参加型アクションリサーチの設計など多岐に渡ります。



当事者ユースのための非公開イベント（その1）



「社会的養護を必要とする若者のレジリエンス

～セルフケアから始める

“lived experience（当事者として生きた経験）”の活用」

開催日時：2023年2月25日 午後4時から6時まで

対象者：これは、招待制の当事者ユースのための非公開トレーニングです

○ プログラムの趣旨

社会的養護の当事者ユースであるブランドン自身が、どのように人とのつながりをつながりながら、自身をケアしてきたのかその歩みと、そのプロセスにおいて、どのように自身の人生の物語を他者と共有したのかについて語っていただきます
参加型の学びを用いながら、日本のユース同士と交流しながらすすめていきます

○ IFCAユースたちの活動資金のために寄付を募っています

3,000円以上ご寄付いただいた方への特典：

★心理の専門家である当事者ユース ブランドン・ヒギンズによる限定録画「社会的養護を必要とする若者のレジリエンスの共有

★IFCA出版物「ユースパブリケーション 特集：ユース・アドボカシー」（通常1,000円で販売）

★IFCA10周年クリア・ファイル

▶ご寄付はこちらのサイトから：<https://ifcayouthworkshop1.peatix.com>



< 講演者の紹介 ◎ ブランドン・ヒギンズ >

インディアナ州インディアナポリス出身の33歳。10歳のときに里親制度に入り、弟のジョシュアと約3年間を過ごし、2022年に養子に出されました。ケンタッキー州立大学卒業（教育学）、2016年にアーカンソー大学修了（ソーシャルワーク）。の修士課程を修了しました。大学院を通じて、家庭内暴力、児童福祉制度における移民・難民の経験、アイデンティティをめぐる研究を発表する機会を得ました。

臨床ソーシャルワーカーのライセンスを持っており、学校ベースのセラピストとして、フォスターユースの子どもたちと家族、ホームレス経験者、そして大学生にオンラインセラピーを提供する仕事に携わっています。現在は、インディアナポリス公立学校のひとつでスクールソーシャルワーカーとして働いています。また、最近、個人事業としてAspiring Peace consultation, and counseling, LLCを立ち上げ、フォスターユースや社会的に脆弱な状態におかれてしまった人々に手頃な価格で治療サービスを提供することになっています。



講師：ブランドン・ヒギンズ



第7回 日米ユースサミット



2月26日(日)
10~12時
ハイブリッド開催

コロナから新しい時代へ

IFCA日米交流の再始動

長引くコロナ下ですが、IFCAでは国内および日米のオンラインでの交流を続けてきました。そして、2022年9月、2年半ぶりにIFCAの日米ユースの交流が再スタートしたのです。

本シンポジウムでは、2022年度のIFCAの活動報告を行うとともに、アメリカで長らく当事者活動のリーダーシップをとってきた二人のプロフェッショナルユースをお迎えし、今後の日本における当事者参画について考える機会にしたいと思います。

プログラム

- 2022年度渡米チームによる米国訪問の報告
- IFCAの4つのプロジェクトによる活動報告
- 日本の社会的養護の当事者参画に向けてのメッセージ

マディソン・サンドバル - ラン
ブランドン・ヒギンス

おふたりのプロフィールは裏面参照

●参加費: ¥1,000 *当事者ユース無料

●定員: 対面会場100名、オンライン450名(録画配信もあります)

お申し込みはこちらから

<https://ifcayouthsummit2023.peatix.com>



申し込みフォームQRコード



International Foster Care Alliance

主催: インターナショナル・フォスターケア・アライアンス [IFCA]
共催: SOS子どもの村JAPAN

お問合せ: info@ifcajapan.org

対面会場：九州大学西新プラザ

〒814-0002 福岡市早良区西新2-16-23 大会議室

TEL 092-831-8104 FAX 092-831-8105

アクセス：福岡空港から地下鉄「姪浜」行き乗車 約20分、博多駅から、地下鉄「姪浜」行き乗車 約15分

*いずれも、「西新」駅下車、⑦番出口より徒歩約10分

米国プロフェッショナルユースのご紹介



マディソン・サンドバル - ラン

ベトナム系黒人の一世で、7年間里親制度で育ちました。19歳でフォスターユースの若者のチームでネバダ州の社会的養護の子ども・若者の権利章典の策定にたずさわりました。20歳の時、米国議会でフォスターユースに対する過剰投薬に関わる認識を変革するために活動しました。政策、実践、研究において、フォスターユースを巻き込んで展開する方法と戦略に関する研究報告書を共同執筆しました。

現在は、児童福祉制度を強化・改善するために、家族や若者のリーダーと提携する専門家およびアドバイザーを務めています。専門は、州や国の機関へのコンサルテーションの提供、プログラムやサービスの向上、採用やトレーニングの支援、公共政策の開発や実施への情報提供、参加型アクションリサーチの設計など多岐に渡ります。

ブランドン・ヒギンス

インディアナ州インディアナポリス出身の33歳。10歳のときに里親制度に入り、弟のジョシュアと約3年間を過ごし、2022年に養子に出されました。ケンタッキー州立大学卒業(教育学)、2016年にアーカンソー大学修了(ソーシャルワーク)。の修士課程を修了しました。大学院を通じて、家庭内暴力、児童福祉制度における移民・難民の経験、アイデンティティをめぐる研究を発表する機会を得ました。

臨床ソーシャルワーカーのライセンスを持っており、学校ベースのセラピストとして、フォスターユースの子どもたちと家族、ホームレス経験者、そして大学生にオンラインセラピーを提供する仕事に携わっています。現在は、インディアナポリス公立学校のひとつでスクールソーシャルワーカーとして働いています。また、最近、個人事業としてAspiring Peace consultation, and counseling, LLCを立ち上げ、フォスターユースや社会的に脆弱な状態におかれてしまった人々に手頃な価格で治療サービスを提供することにしています。



IFCAプロジェクト出版物

当日の活動報告でご紹介します。



トランジション・ツールキット
未来を切りひらくための
ロードマップ



これから新しい生活が始まる
あなたのために
聞きたい・知りたい
伝えたい



プロジェクトC：コロナ下における社会的養護の当事者ユース



パーマネンシーパクト



アメリカ・カリフォルニア州における社会的養護で育つ子ども・若者の権利章典



当事者ユースのための非公開イベント（その2）

日本版 社会的養護で育つ子ども・若者の権利章典をつくる ～アメリカ・ネバダ州の取り組みに学ぶ～

◎ 米国スピーカー マディソン・サンドバル-ランさんとブランドン・ヒギンスさん

開催日時：2023年2月26日 午後1時から5時まで

対象者：これは当事者ユースたちのための招待制の非公開イベントです

○プログラムの趣旨

コロナ禍が始まった2020年3月の渡米プロジェクトで、IFCAのユースは、カリフォルニア州における社会的養護で育つ子ども・若者の権利章典に出会いました。2020年4月から子どもの権利プロジェクトが立ち上がり、権利章典を学び、2021年3月に報告書を発刊しました。現在は、日本版の権利章典をつくりたいという思いで活動をしています。

今回、来日するマディソンは、ネバダ州で権利章典を策定した際のリーダーシップをとった方です。どのようにどうやってユースの声を集め条文にしていっただか、誰とつながって、どのようにアクションしていくかその具体的な方法論について学びたいと思います。

ブランドンには、米国（およびインディアナ州）の社会的養護の当事者のためのメンタルヘルスの現状を、子どもの権利の視点からお聞きします。そして、日本ではまだ十分に人権意識が醸成されていない人種・LGBTQなどの多様性、そして当事者への差別や偏見についてディスカッションの機会をもちたいと思います。また、米国（およびインディアナ州）の社会的養護の当事者のためのメンタルヘルスの現状を、子どもの権利の視点からお聞きします。

米国当事者スピーカーのお話とディスカッションのあと、IFCAのユースたちと招待を受けた地域のユースたちによる、子どもの権利についてのヒアリングを行います。

◎ IFCAユースたちの活動資金のために寄付を募っています

3,000円以上ご寄付いただいた方への特典：

- ★米国スピーカーの方たちのプレゼンテーションの限定録画「日本版社会的養護で育つ子ども・若者の権利章典をつくる～アメリカ・ネバダ州の取り組みに学ぶ～」の共有
- ★IFCA出版物「ユースパブリケーション 特集：ユース・アドボカシー」（通常1,000円で販売）
- ★IFCA10周年クリア・ファイル

▶ご寄付はこちらのサイトから <https://ifcayouthworkshop2.peatix.com>

